

# 令和4年度 隠岐の島町アイノマゲート推進協議会 議事録

日 時：令和4年12月19日（月）13：30～15：00

会 場：隠岐の島町役場2階 201会議室

出席者：別紙参照

## 1. 開会

## 2. 会長あいさつ

桑子会長：本協議会の会長の桑子です。よろしくお願いいたします。本協議会は西郷港周辺のまちづくりに関して、委員のみなさまにご意見を伺いながら進めていきます。特に重要なのはどんな仕組み、考え方でまちづくりを進めているのか理解していただくことです。工事が始まっていないのでまちづくりが進んでいないように見えるが、具体化するための複雑な作業はかなり進展しているのでご理解をいただきながらご意見を伺いたいと思います。

国交省の離島振興課でのスマートアイランド事業に参加しておりまして、 隠岐の島町の子供たちが高度なデジタル技術を使って学びを実現していくということも合わせてまちづくり授業を行っております。災害や気候変動等で難しいことはたくさんあるが、リスク管理のために技術を高度化していくことが重要ではないかと思っております。よろしくお願いいたします。

## 3. 議題

### 1) 西郷港周辺まちづくりの進行状況

プロジェクトニュース、デザインニュースをもとに西郷港周辺まちづくりとして進めているプロジェクト全体の説明。小中高生とのまちづくり授業を総合学習、総合探求として行っている。世代をつなぐまちづくりとして、子供たちもまちづくりに参加し、進めている。

◇質疑応答・意見

なし

### 2) にぎわいのある道路空間について

国が進める「※ほこみち」制度について、国土交通省の真田分析官をアドバイザーに招き説明をしていただいた。みちの利便増進区域を設定し、沿道に賑わいを演出できる道路空間について説明。

※ほこみち・・・歩行者利便増進道路

◇質疑応答・意見

なし

### 3) 二つの通りのデザインの検討について

デザインチームの代表、菅原氏よりうみまち通りと大社分院通りの二つの通りについて、ワークショップなどの意見を参考に検討を進めている内容を説明。

◇質疑応答・意見

なし

### 4) 滞留できる交流・集会の空間について

魅力があり、集まりたくなる場とはどのような空間か。西郷小・西郷中・隠岐高生との授業を行っている。子供たちの提案を受けて、滞留・交流の空間をどのように活かすか検討している。

◇質疑応答・意見

なし

## 4. 感想・意見

齋藤氏：図書館についてだが、隠岐の島に二つ図書館をつくるとなると今後維持できるのか。例えば役場の支所機能などがあり、運営・管理ができるのであればいいと思うがそこについてはどうか。

事務局：図書館を二つつくるというのは無駄な気もするが、このプロジェクトはいろんな課と協力しており、現在の図書館は町が管理するようになっている。図書館というより、自由に使える図書スペースが可能かという協議を去年から行っている。教育委員会としては協力できるという答えをいただいている。運営費用などはこれから進めていく。視察先でもデジタルな図書館という話が出ており、隠岐の島町はスマ

ートなまちを進めているのでそちらも組み込みたいと思っている。アナログな本なども人気があり要望もあるので、いろいろな機能が組み込まれた図書スペースができればと思っている。

桑子会長：視察先の明石市の図書館では、図書館という言葉を使うと図書館法に基づいた設立や運営になってしまうという話を聞いた。デジタル技術を使いながら情報の共有と蓄積、発信など多様な機能を持てるような図書館的な空間をつくる。ライブラリーという言葉を使えば、従来型の図書館にとらわれない新しいものになるのではないかと。私の考えだが、スマートライブラリーという考え方で進めてはどうか。決まったスペースに図書館の機能を閉じ込めるのではなく、多機能なスペースがある空間をつくるのもありなのではないかと。ほかに意見はあるか。

谷田氏：図書館は二つはいらないと思ったが、本と触れ合える図書スペースは島内のいろんなところにあつたらいいなと思った。これから機能としてどういう場所が必要か考えたときに本というのはとてもいいツールになると思った。ぜひ子供たちのアイデアを生かしつつ、魅力的な場所を整備してほしい。子供たちと一緒にまちづくりを計画していくというのはいいと思う。いろんなアイデアが進み、受け取るという実感が沸くとまちづくりに対する思いも変わっていくと感じた。意見がまちの皆さんに伝わっていくというやり方を考えられるとよいと思った。

もう一つは景観というのは大事だと感じた。真田氏の話聞いていて、そこにたたくみたくなる空間を今までの道路とは違う形をつくっていけると期待が持てる。暮らしている方の思いや願いを反映できる計画でないといけないと思うが、景観として統制の取れた美しいまちができていくとよい。

事務局：ありがとうございます。子供たちの意見をまちづくりに活かすことに賛成してもらえることは我々にとっても励みになる。子供たちはお年寄りのことも考えており、子供たちが未来を想像することについての意見もとり入れながら事業を進めていかなければならない。

桑子会長：協議会やニュースレターで情報を発信しているが、ほかにも情報発信

の工夫をしたいと思っている。その点についてはどうか。

事務局：プロジェクトニュース、デザインニュース、エリア会のニュースは絶えず発信をしていこうと思っている。SNSなどすぐに情報を共有できる情報発信もしていこうと思う。町民の皆さまが特に見られるのが広報誌である。広報誌にも定期的な掲載を考えていこうと思う。

桑子会長：子供たちの考えを反映させることは人生の大きな体験になると思う。隠岐の島に対する愛着にもつながり、まちづくりを通していろんなことを学ぶことにもつながると思う。

そのほかにはどうか。

高梨氏：大社分院通り、うみまち通りが二本の柱になっていると思うが、ターミナルを運営させていただいているものとして、この通りを運用されることについては私どもも賛成しかねるところである。安全面・機能面で大変問題であるということだけは申し上げたい。

もうひとつは資料2にあるような車線を減らして歩道空間を広くするという考えがあるが、町内は一車線しかない。ないものをどういう形でやっていくのか不安があるのが正直なところである。とはいえ、島の取り組みとして子供たちの意見を将来取り入れて、今後の計画に活かしていくというところを国が評価してくださったところはまい進して、意見を聞きながらつくっていただきたい。

桑子会長：ターミナルをどういうふうにも活用するかというのはご意見があると思う。西郷のまちから西郷湾の素晴らしい景観を親しく見ることができないというのは、私もいつ訪れても感じるところがある。うみの景観とまちの景観をうまくつないでいく理念というのはどうお考えか。

高梨氏：安全性・機能性の面で問題があるということ。それが解決できればよい。港は港湾審議会を通さないとなかなか話が進まない。そういった点も含めてお考えいただきたい。

桑子会長：初めてデザインを見たときは本当にできるのか不安であったが、海とまちをつなぐという理念を考えて提案してくださったと思う。安全性の問題なども重要なので、たくさんの課題を解決しなければならないと思う。

事務局：港についても県から安全面や機能面などいろんな条件が出されている。

2期計画であるので今年度から港湾空港課と協議を進めている。隠岐汽船さんのご意見も伺いながら安全性を強化していく。機能面では、港として利用できない場所があるというのを聞いているので、どこまでみちをつなぐのかということも含めて検討していく。

お互いが合意できるところを進めている段階である。

桑子会長：ぜひ安全性等については皆さまが納得できる良い解決法を見つけていただきたい。

真田氏：人口が減少している中で、地元が愛着を持ってもらうことが地域の将来を考えていく上では大事だと感じた。今後、まちづくりにあたってまちの担い手になる学生が参加をし、未来のまちを描いている取り組みは将来につながっていくよい取り組みだと感じた。

合意形成の面で課題も出てくると思うが、前向きに取り組んでほしい。

真井氏：道路管理者・港湾管理者でもあるので町と連携をしながら、R10年度から始まる第2期計画について少しでもアイノマゲートの理想に近づけるよう努力していきたいと思う。

桑子会長：ありがとうございます。

## 5. 事務連絡

本日はご意見をいただきありがとうございました。次回は年度内にもう1回協議会を開催したいと思っております。皆様が検討する時間も設けながら考えていきたいと思っております。ありがとうございました。

## 6. 閉会